カトリック高松教区報

２０１４年１月１日（第１５９号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉
ほんとうに愛したいと思うなら、痛みを覚えるまでに与えなければなりません。そうすれば、私たちの愛は、私たち自身から自由になり、他の人々にとって、信じるに足るものとなります。

踏み出そう 新たな一歩の年

諏訪榮治郎司教

２０１４年の新しい年を迎えました。おめでとうございます。

昨年は司教公式訪問の年として全ての小教区を廻り、皆さまのお顔を覚え、交わりの時を持たせていただきました事を心から感謝いたします。さらに「教区設立５０周年の集い」を感謝、希望、賛美のうちに持つことが出来ましたことも大きな喜びでした。この集いに向けてかのように、「女性信徒としてこの社会で何ができるでしょう」の呼びかけに参集された方々の真摯な分かち合いは「福音による喜びづくり」への歩みとして確認できたことは本当に大きな喜びでありました。

50周年の集いでは、教区歴史を担って下さった先人の方々に感謝し、子どもたちの「エマオの弟子たち」の証し劇に希望をいただきました。ともに賛美の歌で和になれたことは喜びでした。各地区からのあふれんばかりの「祈りのリーフ」から勇気をいただきました。また青年たちは「徴税人ザアカイ」（ルカ19章）の分かち合いから「こんな教会を目指したい」を証ししていただいたことも大きな希望を与えてくれるものとなりました。

今年は高松教区として設立50周年を祝った上での新たな一歩の年となります。日本の全ての教区がそうであるように、高松教区もこれから新しい教会のあり方を策定していかねばなりません。教会がキリスト中心の「神の民」であるために、司祭、修道者、信徒の私たちが「対話の精神」を通して「キリストの教会」へと成長していくのです。「分かち合い」への苦手意識を抱えていた私たちも今、これはなくてはならない意義ある恵みだと分かってきました。いつまでも伝統や慣習にとらわれず、福音の、教会の、キリスト者である事の本質を理解し、よりキリストの教会である事を目指したいと思います。

さて、様々な状況から2014年度からは地区、ブロックの担当司祭の数は確実に減ることになります。これからの教会は司祭同士、司祭助祭と信徒との豊かな協力による協働する教会を作っていく必要があります。とりわけ洗礼、堅信を受けた信徒の役割とその使命に関して「養成」「意識」が新たにされなくてはなりません。

典礼に関しても新たな取り組みがなされることと思われます。この新たな教会つくりへの歩みと共通理解のために、「養成コース」が行われます。

「御ことばの集会祭儀」に向けて、全地区、各ブロックで２０１４年１月から3月にかけて「養成コース」が実施される予定です。司祭チームとみなさまの参加によって、支えあい協力する教会として歩み出す教会になることを願っております。

２０１４年の年頭において（御ことばの集会祭儀）「養成コース」を通して大きな希望のうちに一歩を踏み出したいと思います。

みなさまの参加を心からお待ち申しあげますとともに、皆さまの上に主の豊かな光、地の塩として聖霊があまねく注がれますようにお祈り申しあげます。

「支え合い協力する教区」

司祭・信徒が豊かな協働を

みことばの祭儀養成コース

高松教区司祭評議会・宣教司牧評議会は教区の司祭不足現象が遠い将来ではなく、もう目と鼻の先まで来ている現状を認識し、この状況から司祭不在による近隣教会の合同ミサ、土曜夕のミサや「主日の集会祭儀」を採り入れていく時期に来ていることを踏まえ、信徒による集会祭儀司式者の養成に着手することを決定した。

同時に、共同体の受け入れ準備をいかに整えていくかも重要な課題の一つとなる。更に、無人教会をなくすための対策として、祈りの会、聖書研究、悩みごとの相談など

こういった形での「再課題となる。そこで、司祭の各地区への派遣態勢を充実させた上でブロック単位の集会祭儀チームで携わることを念頭に、２０１４年明け早々被養成者を募って取り掛かる事に決定した。

具体的取り組みについての司祭間の共通認識を得て養成担当司祭研修を行い、年明け早々ブロック毎に出来るだけ多くの男女信徒（Br、Srを含む）の参加を得て養成プログラムを実施し、聖霊降臨の祝日に、その中から地区ごとの推薦を得て、信徒の集会祭儀司式者を任命することとする。

司祭集会：養成プログラムを学ぶ

集会祭儀司式者の養成は急務

生と一致」の実現に取り組むために、信徒の意識を高め、評議会の持ち方、分かち合いの充実や典礼奉仕職を優先課題として

集会祭儀・病者訪問など、信徒の奉仕者養成をめざす。

その意味で今年は集会祭儀司式者養成と司祭の協力態勢の確立が喫緊の

に対応できる人材育成にも力を入れていかなければならない。

また司祭の地区・ブロックを越えた協力司牧態勢の構築も急ぎたい。

特定秘密保護法

「強行採決に抗議」

常任司教委員会

２０１３年12月6日の参議院本会議で「特定秘密保護法」が成立した。これを受けて日本カトリック司教協議会常任司教委員会は翌7日に阿部晋三首相宛てに抗議声明文を送った。声明は同法が言論の自由と人権の侵害にもつながる恐れをはらみ、自由の根幹を揺るがしかねないものであるにもかかわらず、「数の力」で強引な「強行採決」という形で成立させたことに抗議し同法の数多くの欠陥を指摘して危惧を表明した。

定秘密」の範囲が曖昧なまま、その指定を行政側の恣意的な裁量に委ねるものです。これは情報公開制度が未整備の現状にあって、防衛、外交、特定有害活動の防止、テロリズムの防止にあたるとすれば、何でも秘密にされる危険があります。

２・民主政治は市民の信

限され、取材・報道の自由、表現・出版の自由、学問の自由など、基本的人権が侵害される危険があります。さらに秘密情報を取り扱う者に対する適性評価制度の導入は、プライバシー侵害の恐れがあります。

４・防衛大臣が「特定秘密」と指定すれば、それ

収束のめどが立たない現状なのに、放射能の量、健康への影響、環境汚染の実態など、国民の不安をあおり公共の秩序を害することを理由に「特定秘密」と指定されかねず、それは市民の生命、健康をさらなる危険にさらすことになります。

このような重大な問題をかかえ、多くの反対や疑問が呈されている法案については、多方面からの意見を聴取し慎重な審議を重ねた上で、民主的に定めていくことこそが民主政治です。

今回のような拙速な採決に対してわたしたちは断固抗議するとともに、今後同様な強行採決を決して行わないよう要求します。

日本カトリック司教協議会 常任司教委員会
委員長　岡田 武夫 大司教
委員　髙見 三明 大司教
委員　大塚 喜直 司教
委員　梅村 昌弘 司教
委員　宮原 良治 司教
委員　菊地 功 司教
委員　前田 万葉 司教

抗議声明文

「特定秘密保護法」の強行採決に断固抗議します

日本カトリック司教協議会常任司教委員会は、日本国憲法の基本原理を尊重し、人間の尊厳に関わる自由で平和な社会を求める宗教者として、「特定秘密保護法」を、11月26日に衆議院、12月6日に参議院で強行採決したことに対して断固抗議します。

今回採決された「特定秘密保護法」は、日本の根幹を揺るがしかねない極めて重要な法案です。この法案については、以下の指摘する通り、憲法の三大原則である主権在民、基本的人権の尊重、平和主義を侵害する恐れがあり、日弁連をはじめあらゆる層の団体や市民たちが廃案を求めて声をあげました。

このような重大な法案を十分な審議も尽くさず、説得力ある説明もなされないまま強行採決することは絶対にあってはならないことですが、自民党をはじめとする「数の力」で一方的に強行採決されました。これは法案成立反対の民意を無視し、民

民意を無視　民主主義を脅かす

主主義の根底を脅かすものであり、わたしたちは到底容認できるものではありません。

この「特定秘密保護法」は、以下のような欠陥をもつものであることを危惧します。

１・「特定秘密」を行政機関が定めるということは、国会が行政機関の下位に置かれることになり、これは日本の民主主義制度に反します。また「特

託によるものであり、情報の開示は民主的な意思決定の前提です。この法案により国会議員の国政調査権も制限される可能性があります。国会では正確な情報に基づいた議論が保障されるべきなのに、国会への情報提供が限定されてしまうことになり、主権在民が脅かされます。

３・この法案により、市民の知る権利は大幅に制

が自衛隊の海外武力行使や米軍との共同作戦など憲法９条に反することであったとしても秘密裡に実行されることになります。これは憲法前文で「日本国民は、政府の行為として国家として再び戦争の惨禍が起こることのないように、この憲法を確定する」と決意表明した平和主義を根底から揺るがします。

５・福島第一原発事故の

はばたき

明けましておめでとうございます。我が家の玄関脇のツバキは11月頃からツボミがふくらんできて、正月早々からにぎやかな開花が期待されそうでうれしい。

高松教区は設立50周年を迎え11月に盛大な式典を行った。四国４県から大勢の出席者があり、節目の時を祝い、これからの教会のあり方を考えた。

ミサの奉献では４県の県樹が捧げられ、枝には『こんな教会になりたい』という信徒たちの切実な願いが書かれた葉っぱで満開になった。青年たちも未来の教会像として『誰でも』『いつでも』『受け入れられる』教会をめざしたいとメッセージを送った。

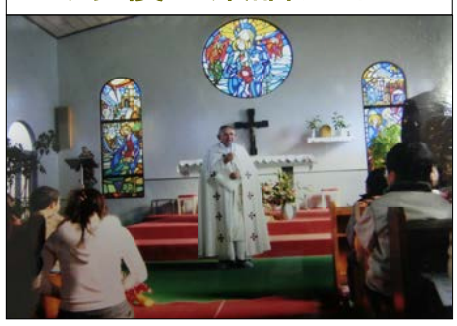
様々な教会像が展開された。さてこの声を今年はどう実らせてゆくのか。諏訪榮治郎司教が教区の優先課題とする『信仰共同体の養成』と関連させながら具体的にどこから始めるのか。

溝部脩名誉司教は式典のあいさつで『まず今から始めることが大切だ。若者がいない、子供がいない、いない、いないと言っていても何もできない』と示唆を与えてくださった。

新しい年を迎え、できるところから取り掛かることが必要だ。教区の全司祭、信徒の本気さ、覚悟が問われている。

小教区紹介
観音寺教会（香川）

ミサ後に茶話タイム



観音寺教会は香川の西端に位置する観音寺市に、マンソ神父様を中心に本当の意味で小教区として頑張っている教会です。ご他聞にもれず、本教会でも高齢化が進み、日曜日のミサに与るのがやっとの状態にあります。

誰が会長と言う事もなく評議員の一員として一人一役もしくは、何役もこなしながらの会議になる程の小人数の共同体です。

ミサの後は、家庭的な雰囲気の中で、その日の聖書解説などを神父様からお聞きし、茶話タイムとなります。その中でミサに参加出来ない信者の様子などを話し合い、訪問できる状態かどうかの確認などもしています。

中堅層の方々は、家庭での介護・家族の都合で教会にこられ難く、大きな教会のように婦人会、青年会ありと、名だたる活動は出来ません。でも、地域の中にあって、自分の車を利用して近所の高齢者者を銀行や買物にお連れしたり、自分の趣味を活かして老人ホームを訪問し、大正琴の演奏を通して、お年寄りたちとの交流を図るボランティアに参加しています。教会共同体の活動にはならなくとも、自ら出来ることを出来る範囲で、地域社会に貢献しています。

また年に一・二度は女性コーラスコンサートも聖堂で開催され、高校生の澄んだ歌声に、地域の人たちと共に癒されております。クリスマスとご復活には、こられる方みんなで教会の大掃除をしたり、ボーイスカウトに草抜きの応援を頼んだりしています。

聖堂正面の十字架は、十四世紀のもので円形のステンドグラスも私たちの誇りとなっています。若者達が沢山いた時代もありましたが、都会の大学に進学し、卒業後は働く場の少ない地方より、都市を選び、残る家庭は老親のみとなっています。故郷を離れ観音寺を巣立った若者たちは、他の教会で実を結び、活躍しております。中には、助祭として、神様への奉仕に輝やく方もおられます。種蒔きの教会として、また故郷の教会として全ての方々が、神様を忘れず御旨に添って生きられるよう祈るばかりです。

また教会に付属する幼稚園の園児たちの元気な声もこだまし、ボーイスカウトも順調に隊員が増えて、活動の場も広がっております。この未来ある青少年たちに未来の夢を託したいと思います。

観音寺教会　山口知恵子

ひと
聖書講座の世話をして28年
松山教会　井上廣子さん（74歳）

「みことばを聞きたいという方の学ぶ場づくりをしてるんです」と松山教会の井上廣子さん。松山教会で毎年９月ごろ聖書学者の雨宮慧神父を招いて聖書講座が開かれるが、井上さんはこのお世話を28年間続けている。

昭和62年、教会の研修会として始まった聖書講座の世話をしていた。信徒の手でやるようになってからも井上さんはずっとかかわってきた。イザヤ、エレミヤなど旧約聖書の読み解き、パウロの手紙の語りかける言葉など雨宮神父のわかりやすい語りはみんなに親しまれた。

今では四国各地から受講者が集まり、信者を中心に未洗者、プロテスタントの人々も参加する。雨宮神父はテレビ出演もあることから『ぜひ直接お話を聞きたい』とやってくる人も。

キリストは弟子や人々を青草の上に座らせてみことばを語られたことから、世話人の会を『青草の会』と命名。『聖書を深く味わいたい』という人々に喜ばれている。『体の動く限り続けたい』と笑うが、これが井上さんの福音宣教のかたちなのだろう。

道後教会　丸尾　修

『典礼奉仕』のために　(22)
「みことばの分かち合い」

高松教区典礼委員長　レナト・フィリッピニ

前号（11月号）「みことばに親しんで」の記事では、典礼で朗読されるみことばに対する心構え、態度と姿勢を取り上げました。今回と次回の「みことばを祈る」では日常生活の中で、みことばを祈りながらの沈黙と黙想から、その味わいと、体験を綴っていただきます。

□□自分を見つめる時間□□

御言葉に耳を傾け、祈りを求めていた頃、レクティオ・ディヴィナが始まりました。未熟な私には導入のことばに促されて神と語り合う沈黙の時が与えられ、既に五十回を迎えましたが、毎回がとても新鮮に感じられます。参加するたびに今日はどんな思いに浸れるだろうかと楽しみになっていました。

毎日の生活の中で神と共に自分を見つめる唯一の贅沢な時間として、このままじっとしてとどまって居たい気持ちが抑えられなくなってきました。十人居合わせたとしても、一人一人の世界が展開し、神が共にいまして語り合う大切な時をこわしたくないという思いに駆られます。そんな時も、分かち合いに転換し、互いに心をかよわせ、開き、語り合う仲間になれることはうれしいものです。信仰年に相応しい良い時を戴いて喜んでいます。

（マリア・和田伸）

□□新しい発見の連続□□

レクツィオ・ディヴィナを始めて、50回目を迎えました。参加するまでは、「みことば」を祈りの対象として、時間をかけて、心静に、神と対話しながら味わうという経験がなかったので、このような機会に恵まれて大変充実した毎日を過ごしています。月二回ではありますが、一つの「みことば」を、参考箇所も加味して、真の意味を味わう事は、大変意義深い事であると思います。また、「分かち合い」については一人一人感想は違いますが、新しい発見の連続で、楽しいひと時だと感じています。この機会を出来るだけ長く続けたいと思っています。

（ペトロ・和田和男）

□□分かち合いで共感□□

50回目のレクツィオ・ディヴィナを迎えました。回を重ねるごとに、みことばを深く味わえるようになり、聖書のことばが身近に感じられるようになって来ました。

神父様の丁寧な指導や解説資料によって、みことばに深く触れることが出来るようになり、自分の固定観念に新しい息吹が注がれ、新しい気づきや受け止め方が出来る実りが与えられるようになってきました。

また、私が一番心を打たれたのは、グループの皆さんと共にする分かち合いでした。感じたことを自由に分かち合うことで、互いに心が開かれ、日常生活で起こる隣人の苦しみや喜び、楽しみにも共感することが出来るようになりました。これからもなお続けられる様にと、聖霊のお導きを祈りたいと思います。

（Sr・長　美喜）

神学生便り
2月に助祭叙階式

宋 송형근（ソン）神学生

こんにちは！わたしは教区の信者さんの多くの祈りのお陰で元気に過ごしています。心から感謝申し上げます。いつのまにか福岡での生活も3ヵ月を残すのみとなりました。その日々を大切にしながらお祈りの内に助祭職に向けて準備しています。

神学校では哲学科2年を修了した後に哲学論文を、神学科3年を修了した後に神学論文を提出しなければなりません。私の神学科の論文の締め切りは11月末でした。ちなみに、論文のテーマは「初期キリスト教の最大の異端グノーシス主義」についてとしました。

11月4日には福岡キャンパスで「召命の集い」の行事が行われる日でもありましたが、神学院の養成者の神父様や神学生たちが配慮してくれたおかげで高松教区の3人の神学生は高松教区設立50周年記念式典に参加することができました。久しぶりに教区に帰って記念式典に一緒に参加できてとても喜んでいます。

わずか数週間のうちに気候が冬らしくなって、神学生たちの中でも風邪に罹る人達が目立ち始めましたが、教区民の皆様、何よりも健康に留意してください。

この冬休み、ご降誕節に元気な姿で、また会えることを楽しみにしながら、皆さんのためにお祈りします。

〈全聖書読み終えて〉①
神様の声「聴く」ことに気づく

聖書１００週間による全聖書の通読講座「聖書に生きる」が始まったのは、２００７年11月5日で、丸6年間をかけて今年２０１３年12月16日に全課程を終了することになった。

この間、私自身は、３ヶ月の怪我入院による中断があったが、西川助祭の指導と講座仲間の励まし、家族の支えによって無事終えることが出来た。改めて深く感謝します。

この聖書講座を始めるに当たって、西川助祭は、みことばと出会い、研究し、分かち合い、祈る、ことを通じて、１００週間で全聖書を完読することを目指すといわれ、終始熱心に指導された。期間は、当初予定の2倍の２００週間になったが、目標を達成することができた。

キリスト信者である限り、生涯で一度は旧約・新約の全聖書を通読したいと思うのは自然であろうが、いざ、これを実践するとなると、多くの困難があり、挫折することが多い。幸いにも、人生の終末期の80歳代になって通読することが出来た喜びは大きく、神の恵みに感謝したい。

講座全体を振り返って気づいたことのひとつは、「聖書を読む」ということは、「聖書を聴く」ことであるということである。これまでは、聖書を読むことは、み言葉が語られた背景すなわち時期、場所、機会などを知的に理解することに偏って、み言葉自身が自分に何を求めているのかを素直な気持ちで「聴く」ことが、おろそかにされていたことを反省している。

それは、大祭司エリに仕えていた少年サムエルが、主の呼びかけに「主よ、お話し下さい。僕は、聞き、いております。」と応えた姿勢とは全く異なるものであった。また、第2バチカン公会義の啓示憲章でも「われわれは、祈る場合は、神に話しかけ、神の言葉を読む場合は、神の話を聞く」と指摘しており、前教皇ベネディクト16世も聖書の読み方の実践で、レクチオ・ディヴィナ「聖なる読書」を勧めておられる。

また、この聖書講座を受講してよかったことは、旧約聖書の終了を二つの区切りとして、受講生を主体に「モーセとイエスの足跡を訪ねて」の聖地巡礼をしたことである。巡礼団は、西川助祭を団長に15名が参加し、3年前の２０１０年11月2日から13日までの12日間をかけて、エジプト・シナイ・イスラエルを訪ねた。折角の機会だったので、妻と一緒に参加したが、一生の良い記念となった。この聖地巡礼についての総合的な所感は次の通りである。

巡礼の旅は、出会いの旅であり、発見の旅であった。それは、神との、人との、そして自分との新しい出会いであり、「人は、出会いによって育てられ、別れによって深められる」を実感した旅であった。

桜町教会　細谷正高

――――――――

“あなたの御言葉は、わたしの道の光　わたしの歩みを照らす灯。”

（詩編１１９−１０５）

よき業を始められた方が、その業を完成に導くまで、ずっと歩みを照らし導き続けてくれるのが神のみ言葉である。

２００７年の秋から始まった「聖書１００週間」、しかし期間に拘るよりは、むしろ聖書をしっかり生きる講座に力を入れてきた。開始から丸6年を経過した今年、12月16日を以って15人の仲間が旧・新約聖書全体を読み通すことができた。

その喜びを、受講者一人一人の声を直接読者の皆さんへシリーズで届けたいと思います。彼らの声を聞いて、一人でも多くの方が聖書と出会う喜びをご自分のものとして頂ければ幸いです。

本部事務局長
西川康廣　助祭

韓国運動家の碑に献花
金沢で日韓司教交流会

第19回日韓司教交流会が２０１３年11月12日から14日まで金沢市内のホテル、金沢教会などで開催され、日本側から全司教17人、韓国からは18人の司教と1人のベネディクト会大修道院長、通訳者と両国司教協議会の事務局担当者らが参加した。日韓司教交流会は日韓両国が共通の歴史認識を持とうと１９９６年に始まった。

今回は発布50周年を迎えたヨハネ23世の回勅『パーチェム・イン・テリス』（地上の平和）について改めて学んだ。

11日には、オプショナル・ツアーとして、希望者が岐阜県・白川郷などを回った。

12日は両会長のあいさつと全参加者の自己紹介の後、日本側が講演を行いホアン・マシア 神父（イエズス会）がテーマ「教皇ヨハネ23世『地上の平和』の背景、現代世界に対するその意味と影響」について詳しく説明した。

13日の韓国側講演はスーウォン教区のイ・ソンヒョ補佐司教が「Pacem in Terris 現在においても現実性のある勧告」と題し、話した。その後、あいにくの雨の中、兼六園を散策した。

午後は金沢教会で、高山右近の一つの書状について、石川県立美術館の村瀬博春（ひろはる）さん（東京・麹町教会所属）が説明。その場で、同教会の人々によって、両国司教に抹茶が振る舞われた。さらに、１９３２年に上海で爆弾事件を起こし、金沢で処刑された韓国独立運動家、ユン・ボンギル（尹奉吉）の埋葬跡地と記念碑を訪問して献花と祈りをささげ、占領時代の人物に思いをはせ共に祈ったことは意義深いことだったと、司教らは感想を述べた。

夕のミサには、教皇大使ジョセフ・チェノットゥ大司教も参列した。野村純一司教は説教で、パーチェム・イン・テリスについて共に学んだことと、高山右近のことにも触れ、「世の中の考え方と、信仰を生きることには今も隔たりがあるが、こうしたことから学ぶべきものがあった」と語った。

最終日の14日はカン司教が朝ミサの説教で、自身のチェジュ教区の海軍基地建設反対運動に触れた。この問題で3人が収監され、2人が起訴されている。その中で、韓国で初めて、このミサの日に修道女が裁判にかかる。連帯する司祭修道者が多く裁判所に行く。「パーチェム・イン・テリスの4つの柱のうち、正義は一つ。彼らは正義を守るために働いている人。イエスの足跡をたどっている人だと思う。司教さまたちも一緒に祈ってほしい」と語った。

最後の全体会で、5つのグループに分かれ、今回の交流会で学んだことを確認し合い、来年20回目となる交流会のテーマの希望を出した。来年、再来年と行われるシノドス（代表司教会議）に合わせて、「家庭」を取り上げては、といった案などさまざまなものが出た。来年は、韓国で開かれる。なお、フィリピンの台風30号被害のために、両国司教によるお見舞い、神様が、絶望のうちにも希望の光を見出すことができるよう、みちびいてくださることを信じて、とのメッセージが作成され、参加司教が全員署名した。英訳後、15日にフィリピン司教協議会へ送付された。

ネットを宣教のツールに
全国教区広報担当者会議

植井理行氏

菊池功司教

10月15日から17日まで、東京・潮見の日本カトリック会館で「全国教区広報担当者会議」が開かれ、ことしは11教区から14人が参加した。

２つの講演があり、１日目午後には、菊地功司教（新潟教区）が「広報教会50周年を迎えた今・ソーシャルメディアを生かした教会に向かって」と題し、第2バチカン公会議の教令、その後教皇庁広報評議会から出された指針、さらに、ことしの世界広報の日メッセージを用いて、現代世界において、カトリック広報が目指すべき道筋について話した。ことに現代におけるネット利用について、慎重さをもちつつ、しかし積極的に対話のツールとして利用し、福音宣教に資するものとするよう、菊地司教は参加者に呼び掛けた。

２日目午後の講演では、TBSテレビ編成局メディアライツ推進部の植井理行さんが「ネット上での著作権・肖像権について」と題し、教区報などの紙媒体、ホームページなどのネット上で留意すべき著作権や肖像権の問題について概説した。さらに、各参加者からは個別の事例について質問が出され、著作権なしで利用できるもの、著作権を侵害することになるものなど、具体的に説明してもらった。

その他、各教区での紙媒体、ネット利用の広報の現状、問題点などの情報交換も行われた。教区間、中央協議会と教区広報間での連携をさらに深めるための連絡方法も検討された。次年度も、教区広報の技術向上のため同様の会議を開催する方向で、候補となるテーマが参加者から集められた。教区広報に関わる諸問題の中で、基本的な在り方を確認する意味において大変貴重な事柄への示唆に富んだ研修会となった。

神さまのサイン

丸亀教会
香川　法子

電車で出掛けた帰り、私は、窓際の席に座って、遠くに広がる景色を眺めていました。晴れ渡った空の下に、乾いた冬の大地が広がっていました。しばらく眺めていると、私の頬は火照り、身体が汗ばんできました。気が付くと、春のような陽の光が、車窓一杯に射し込んでいました。あちこちから、シェードを降ろす音が聞こえてきます。この光を遮るために、私も当然のようにシェードを降ろしました。少し前まで賑やかに感じていた電車の中が、なんだかひっそりと静まったように思えました。

私は、手に持った本を読み始めました。シェード越しにきらめく柔らかな光は、私の頬や本を持つ手に注がれて、優しい温もりを届けてくれます。どんなに光を遮っても、光は、輝き照らすことを止めません。遮っても遮っても、その遮ったものを通してまでも、変わらずに光を届けてくれます。私は、ハットしました。これが、神様の『愛』なのだと。

人は本当に勝手なもので、自分の都合で、神様の『愛』を閉ざしてしまいます。そして、そのことさえも気付かずに、文句ばかりを呟いて、いつの間にか、神様に背を向けて、堂々と歩いている自分がいます。神様にすぐ取って代わろうとするこんな弱い人間を、神様は、「知らない」とは、決しておっしゃいません。遮ったシェード越しの光のように、どんな人にも、どのような状況にある人にも、変わることなく、ご自分の『愛』を注ぎ続けてくださっています。片時も、その『愛』を惜しむことはありません。にこにこと笑っている訳ではないでしょうが、心を込めて命を吹き込んだ大切なご自分の子たちに、何とかしてこの『愛』に気付いて欲しいと、辛抱強く待ちながら、気付きのサインを送り続けてくださっているのです。

自信たっぷりに胸を張って歩いている時も、何ひとつ希望が見出せず生きる気力を失っている時も、ほんの少し自分を横に追いやって、大きないのちの営みに心の目を向けると、この方の恵みの中で、いつも生かされている自分を見出します。神様のこのサインに気付く道は、幸福の絶頂期かもしれないし、死を願うほどの辛い時かもしれない。どちらも、自分を縛っている自分にとって都合の好いものを、勇気を持って手放す時、神様という方は、『愛』以外何も持っていないことを知らされます。

開いたままの本の向こうから、神様はこんな気付きのサインを、私に送ってくださいました。やがて電車は、緩やかなカーブに差し掛かり、暖かな温もりにすっぽりと包まれて、前に座っているおじさんは、居眠りを始めました。たくさんのお土産の荷物の心配など、どこ吹く風。気持ちよさそうに眠っているこの人の姿が、私には、神様にすべてを委ねきった姿にも思えました。神様に祈りを捧げた後は、心の思いを解き放ち、すぐ傍で見守り導いてくださっている神の『愛』をひたすら信じて、こんな風に無心になって生きることなのでしょう。

新しい年を迎えても、神様の『愛』は、何一つ変わることはありません。このサインに気付く心をいつも願いながら、置かれた場所で、主とともに新たな年も生きていきたいと思います。

若い力
青年たちの『こんな教会になりたい』
教区設立50年の集いから

「50周年記念ミサでの青年たちの発表がとても印象的でした。」との声をたくさん聞きます。

あの発表までのプロセスでは、まず諏訪司教様と共に数人の青年が、イエスと徴税人ザアカイの出会いの話を観想してじっくり味わいました。そのことを基にして「どんな教会になりたいか」のアイディアを出し合い、KJ法でまとめて表にし、一人の青年がその説明文を作りました。表の中にある項目ごとの大きなカードを作り、前日塩江の宿舎で夜遅くまで、説明文の朗読に合わせて、カードを持った人の動き方のアイディアを出し合いそれを練習し、当日に臨みました。青年たちの熱心な取り組みに頭が下がる思いです。

このプロセスの中で生まれた循環型の未来の教会像を、若い世代の人たちと共に模索し熟慮していく…、そんな今後の青少年委員会でありたいと願っています。

尚、1月18日19日に高松教区青年の集いを行います。その上に神の豊かな恵みをお祈りください。

青少年宣教司牧委員会
Br・八木信彦

ちょっと　ひといき

短　歌

クリスマスプレゼント給い
写植する手の動くテンポ常より早し
目覚めれば生命のあるを嬉しみて
朝の静寂に鳴く鳩を聞く
人のためになさぬは何の生命かと
キリスト叱り今朝の腹痛ぞ
食足りて腹満ちいれどわが胸の奥
底に棲む何ゆえの餓鬼

2013年「一粒会」近況報告

2013年12月3日、「一粒会の集い」をカトリック四国会館で開催しました。3人の神学生たち（宋、ヨゼフ、高山）諸兄の近況報告、そして２０１４年2月23日（日）に宋神学生の助祭叙階式、3月27日（金）ヨゼフ神学生の朗読奉仕者選任式と高山神学生の助祭司祭候補者認定式の予定が発表されました。場所はいずれも桜町司教座聖堂です。

次に会計報告がなされました。昨年度は今後の養成費を賄えるほどの過分な献金を頂きました。心からの感謝を申し上げます。

終わりに規約の見直しがなされ、今後は援助の間口を広げ、「召命の集い」等も対象とすることが了承されました。

高松司教区の「一粒会」は司祭召命と神学生養成に寄与することを目的として設立されたものです。会員は目的達成のため、祈りと犠牲を捧げ、献金し、召命促進運動を行います。召命と養成のためのご協力、ご支援を今後ともよろしくお願い致します。

一粒会担当司祭
松永洋司

聖ドミニコ宣教修道女会

医療のともしび（38）

医師の勉強法

医学部で６年間基礎を習得し、卒業後臨床研修を指導医のもとで数年行います。この間 先輩医師から直接指導を受けたり医学書を読んだり、学会や研究会に参加したり、論文を読むこと書く事が重要で、ここで学習の基礎が築かれます。研修医を終えたあとは この勉強方法を継続しながらの深化が求められることになります。

卒業後、約１０年を経過するころには、世間的な言い方をすれば一人前として認知されますので、手取り足取りの勉強は期待できません。かわって、次第に自主的な勉強が多くなってきます。ということは、勉強を怠ると医学の進歩についていけなくなるということです。ですから全ての医師が積極的に最新の医療知識を身に付けるように求められているともいえます。

医療分野にも日々新しい知識と技術が生まれています。たとえば 私の整形外科では、手術の時に患者さんに使用する骨接合時材料はどんどん新しいものが生まれ 供給されています。１０年前の手術手技ではもう間に合わないといったことが頻繁に起こるわけです。インプラントの素材が改良されたり、形状が変化したりなどのマイナーチェンジから、新しい手術手技などのメジャーチェンジまで様々です。ですから医師を続ける以上は毎日の勉強の継続が求められているのです。

日常、診療を終えた夕方から勉強を始め、18時ころから勉強会に出ることや、ゆっくりと医学書や論文に目を通すのもそうです。また週末や休日に学会に出張をすることも年に数回あります。日中に勉強する時間がとれればいいのですが そんな医師はほとんどいないでしょう。

かかりつけの医師にあったとき、上記の医師のライフワークに思いをはせるのもいいかもしれません。

最後に、私にとって最強の教科書は患者さんであると思っています。医師が自己学習し、実践で体得した時に起こる納得感は患者さんから得ることしか出来ません。医療の評判がいいとしても、目の前の患者さんがよくなるかどうか検証してかなければなりません。「今日はいかかですか？」という質問をすることが多いですが、これは患者さんの状況を把握すること以外に、医師が提供した医療について結果がどうだったのかの検証をするという意味合いも含まれているわけです。

坂出聖マルチン病院 整形外科 田賀谷健一

教区スケジュール

1月

1日（水）神の母聖マリア（祭）世界平和の日
3日（金）イエスのみ名
5日（日）主の公現（祭）
12日（日）主の洗礼（祝）
13日（月）聖ヒラリオ司教教会博士　成人の日
17日（金）聖アントニオ修道院長（記）
18日（土）聖母の土曜日　キリスト教一致祈祷週間(～25日)
19日（日）年間第2主日　エキュメニズムミサin桜町10:00
21日（火）聖アグネスおとめ殉教者（記）司祭評議会 10:30
25日（土）聖パウロの回心（祝）宣教司牧評議会役員会
26日（日）年間第3主日
28日（火）聖トマス・アクイナス教会博士（記）
31日（金）聖ヨハネ・ボスコ司祭（記）

2月

2日（日）主の奉献（祝）
6日（木）聖アガタおとめ殉教者（記）
5日（水）日本26聖人殉教者（祝）
9日（日）年間第5主日　溝部脩名誉司教・叙階50周年記念
10日（月）聖スコラスチカおとめ（記）
11日（火）建国記念日
14日（金）聖チリロ隠世修道者 聖メトジオ司教（記）
16日（日）年間第6主日
22日（土）聖ペトロ使徒座（祝）
23日（日）年間第7主日

物品購入で支援の輪を

できること探し　被災地訪問

２０１１年３月11日東日本大震災から2週間もたたない時、伊予市のスーパーのガラス窓に、あるグループの「今年小学校を卒業なさったみなさんへ」という張り紙があるのを見つけました。内容はランドセルを被災した小学生へ新学期までに送りたいので、ランドセルを下さいという内容でした。

グループの発起人の中１人の名前をみて嬉しくなりました。なぜなら彼は5年間、カトリック郡中教会の土曜学校に来ていた子でしたから。

被災された方への支援を模索していた私は、素早い彼たちの行動を見習って今出来ることから始めようと決め、郡中教会の天使会を基盤に支援の輪を広げていきました。

去年９月中旬に3度目となる10日間の「出来ることを探しに」被災地訪問の旅をしました。

今、仙台教区では二つの柱で被災地支援が行われています。一つはカリタスジャパンが被災地に設置したカリタスジャパンの各ベース。もう一つの柱は仙台教区の平賀司教様が出された仙台教区〈4↓6・56〉計画です。これは国道4号線沿いにある内陸部の諸教会が国道6号線および45号線沿いにあって大きな被害を受けた人々を支援するというものです。

私は今回、第二の柱の主旨によって活動している、福島県白河市の「白河みみずくの会」、仙台市八木山の「八木山オリーブの会」、東仙台の「あけぼの会」、そして第一の柱であるカリタスベースの石巻ベースと大船渡ベースを訪ねることができました。

そこで見つけた「私にも出来ること」をみなさまにお知らせして支援の輪を広げていただければと願っています。

前回、訪ねた時は各支援の会が企画したお祭り（お花見・夏祭り・クリスマス会等）に必要なものを支援したいと思いました。そして、愛媛からも応援していることが分かるように、愛媛の名産品や、土曜学校の子供達の手紙を添えた物を必要な数だけ送らせていただいてきましたが、今回は、被災地で作られたものを購入することが援助の力になるのではないかと感じました。

たとえば、仮設住宅の集会所でみなさんが集まって作っている手芸品や小さな商店（特にカリタスが復興支援してできた仮設商店街）の商品などです。

連絡（電話）をすれば喜んで送って下さいます。教会バザーの時、また教会で何かのパーティーがあるとき、東北の物を味わってみるのもいいかなと思っています。

この紙面に目を通された方で、資料等がご用な方は今泉（TEL089-982-2089）までご連絡下さい。注文先や品物についてお知らせ致します。

最後に、今回の東北訪問でお会いした中で忘れられない方々をご紹介させて頂きます。お一人は大船渡ベースから派遣されて行った陸前高田市の養護老人ホーム「松原荘」で車椅子を押してお部屋までお連れした方で、「婆ちゃんが津波に流されて死んでしまった」と奥さんのことを話して下さり、二人で泣きました。話を変えても最後は「流されてしまったの」で終わる会話に一緒に泣くことしかできませんでした。

もうお一人は大船渡での夜、仮設の「大船渡屋台村」で出会い「海は怖いけど、やっぱり海が好きだから」とおっしゃっていたおじいさんとその言葉です。愛媛から来たと言った私の手を握り「ありがとうありがとう」と言って喜んで下さいました。

今回もすばらしい出会いを頂きました。神に感謝！

カトリック郡中教会信徒
今泉 洋子

告　知　板

高松教区青年の集い

テーマ：「わたしたちが教会です」

期　日：2014年1月18(土)/19日(日)
場　所：聖カタリナセミナーハウス
申込先：Br.八木信彦　090-9775-0084
申込締切：2014年1月6日
対　象：18歳(高校生は除く)～35歳
参加費：2000円
時間割：1月18日(土)
17:30 セミナーハウス集合・受付
17:40 祈り・オリエンテーション・自己紹介
18:00 夕食・片づけ
19:30 セッションⅠ
20:30 レクレーション・休息
21:15 セッションⅡ
22:15 寝る前の祈り
22:30 交流会～
19日(日)
7:45 朝の祈り
8:00 朝食・片づけ
9:00 セッションⅢ
10:00 レクレーション
11:00 昼食準備・昼食・片づけ
13:00 セッションⅣ
14:00 ミサ準備 14:30 ミサ
15:30 記念撮影・解散

基本的に全日参加、部分的な参加も相談に応じます
参加費等で参加をあきらめることがないように。全額が難しい場合、遠慮なくお知らせください。また集い開催に援助できる場合は、ご協力をよろしくお願いします。
持ち物：筆記用具、保険証コピー、各自宿泊に必要なもの

新　刊　書　籍　紹　介

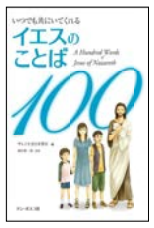
■結婚の手続きと典礼準備のハンドブック

「カトリック教会での挙式を希望されるお二人とその準備に同伴される奉仕者のために」信者と未信者の場合、信者同士の場合など、さまざまなケースを念頭に、現場で実際にどのように準備をしたらよいのかを解説する。教会必携の一冊。

目次：「挙式の希望とおもな手順」「民法および教会法上の要件」「結婚講座への出席」「カトリック教会の結婚観」「婚約式（任意）の典礼準備」「結婚式の典礼準備」「その他の準備」「結婚式の後にも」

白浜 満＝聖ザビエル典礼研究室代表 著
稲川保明 校閲（A5判・104頁・定価1050円）教友社

■いつでも共にいてくれる
イエスのことば100



イエスの言葉には、だれにでも通じる力強いメッセージがあります。若者と、若者に関わる大人たちに希望と慰めと救いを与える１００の言葉集。初めてイエスに出会う人も思わず親しみを感じる解説付き。

編者：サレジオ会日本管区　1859年、ドン・ボスコにより創立。青少年、特に貧しく不利な立場にいる青少年のために生涯をささげて働く、カトリックの神父・修道士による修道会。

監修者：浦田慎二郎（うらた・しんじろう）1971 年生まれ。サレジオ会司祭。神学博士。

文庫判（A6判）並製　207頁　定価（本体500円＋税）ドン・ボスコ社

ＴＳＣ便り

平素よりＴＳＣへのご理解、ご協力を頂きありがとうございます。「ワンコインボックス」運動も徐々に広がりつつあります。今後ともあわせてボランティア募集へのご協力を特に宜しくお願いします。

TSC 高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告（含お米券）
10・11月分442,005円
（内ワンコイン174,478円）
累計14,110,595円

編集後記

信仰年も閉幕し新年２０１４年を迎えました。教区報を隔月発行していますが、高松教区の動きがどこまで反映され、信徒の皆様の信仰と小教区共同体の中でどれだけの助けになっているのかを考えた時、更なる充実を図らねばならないことに気づきます。

今年は高松教区にとって信徒の時代元年と位置付けることが出来る大切な年となります。わたしたち信徒がその霊性に磨きをかけることが求められる年となるでしょう。（Ｊ）

医療法人社団聖心会　阪本病院

わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します

院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.idm-hcg.co.jp/sakamoto/

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう

暁の星学園

鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園